

「名門復活」と「向上進取の精神と高い志の涵養」を目指し、最重要課題「学校の組織的な教育力の強化」を推進してきた、今年度の結果である。今年度の結果を検証し、改善を加え、次年度へ反映させ、学校全体で取り組んでいく。下線は昨年度比で上昇した数値を示す。

5年度の数値目標		5年度成果	令和4年度←令和3年度←令和2年度	
①	国公立大現役合格者数	8名以上	5名	4名 ← 3名 ← 4名
②	難関私立大（早慶上理）現役合格者数	8名以上	1名	4名 ← 1名 ← 5名
③	上位私立大（GMARCH等）現役合格者数	50名以上	27名	21名 ← 30名 ← 55名
④	日東駒専現役合格者数	70名以上	77名	83名 ← 65名 ← 60名
⑤	大学入学共通テスト受験者数及び平均得点上回り率	200名、0.95以上	150名 0.98	154名 ← 152名 ← 126名
⑥	全国模試3教科・科目1年生の平均偏差値	48以上	48	46.7 ← 44.8 ← 46.2
⑦	全国模試3教科・科目2年生の平均偏差値	49以上	47.1	46.8 ← 47.2 ← 48.6

(1) 教育活動の目標と方策に関する評価 ※内部評価はA満足 B概ね満足 C改善が必要な3段階

項目	内部評価	成果と課題	改善策
学習指導 進路指導	1	<p>[成果] 外部教育機関講師による大学入学共通テスト動向の研究研修会のJ実施。英語4技能対策GTECの実施体制の充実を図った。</p> <p>[課題] 大学入学共通テスト受験者数が減少傾向、平均得点の上回り率の上昇。総合型選抜受験希望者が増加による指導が課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科内で国公立大学や難関私立大学等受験への対応として、共通テストの難関私立大学レベルの研究活動。</li> <li>教科ごと模擬試験分析方法のノウハウを構築し、学習指導への反映。</li> <li>教科内での大学入試問題を分析し、具体的な指導の構築。</li> </ul>
	2	<p>[成果] 進学指導研究校として、進路指導部主導による組織的な模試分析会や進路検討会(ケース会議)を更に推進し、全教職員による共通認識のもと、より効果的な生徒への還元へに努め、一段高い生徒の進路実現を図る。</p> <p>[課題] 生徒の学力到達度及び受験志望状況の共有による学習体制及び内容の見直し。各教科の組織的な指導体制の強化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科単位の模試分析会</li> <li>ケース会議を出願検討会へ移行して受験指導の促進、模試の事前・振り返り指導</li> <li>個別面談指導、保護者受験ガイダンス計画化</li> <li>立志塾の戦略的な年間講習計画の構築</li> </ul>
	3	<p>[成果] 土曜日を含む学期中及び長期休業日中の補習・講習を各分掌・教科・学年が連携し、計画的・組織的に実施する。</p> <p>[課題] 学期中や土曜日を活用した講習対策に対する共通理解。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日、土曜講習補習の組織的指導体制</li> <li>戦略的な講習計画の策定</li> </ul>
	4	<p>[成果] 言語能力の向上を図るため、読書活動を一層推進するとともに英語検定等各教科に関連する検定受験を推進する。</p> <p>[課題] 不読率の減少を目指し、ビブリオバトルや読書週間など読書活動の更なる推進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語技能外部検定の充実</li> <li>貸出率、不読率の可視化。</li> <li>新聞の活用</li> <li>探究活動の発表</li> </ul>
	5	<p>[成果] 合理的配慮の校内研修会実施。通級の指導体制の確立</p> <p>[課題] 特別支援教育(発達障害等)の理解推進及び外部機関との連携。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育コーディネーター、SCとの連携体制の充実</li> <li>外部機関との連携強化</li> </ul>
	6	<p>[成果] 通級、関係機関ネットワーク構築。専門性の活用及び特別支援Cの体制充実。</p> <p>[課題] 障害理解とインクルーシブ教育。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアガイダンスの見直し</li> <li>「府中のベクトル」、「年間LHR指導計画」作成精査。</li> <li>指導根拠の共有化推進</li> </ul>

	7	ボランティアマインドの育成等、全教育活動を通してオリンピック・パラリンピック教育を推進していく。	C	[成果]オリンピックの歴史と意義の確認。 [課題]ボランティアマインドを身につける取組が必要。	・教科指導にとどまらず、学校行事や部活動を通じた組織的なボランティアマインドの育成を図り、地域の課題と連携を探索させる。
生活指導	1	時間遵守の指導、挨拶の励行の徹底、頭髮の染色、化粧品や装飾品等をさせない指導等、基本的生活習慣を確立する。	B	[成果]生徒・保護者、教職員で校則の見直しを継続して改訂した。 [課題]生徒保護者教員の共有化。指導の格差解消。	・学校全体として取り組む意識を高めるとともに、教員ごとの指導根拠の温度差を解消する。
	2	授業規律をはじめとした学校生活のルール・マナーを遵守させるため、生活指導を全校体制で行う。	B	[成果]チャイム始業・終業は徹底され、規範意識の向上に繋がっている。 [課題]遅刻常習者への対応。	・時間を守る習慣を主体的に定着させるさせる。 ・生活指導部と学年が生徒の主体的な規範規律意識の効果的な指導。
	3	いじめや体罰は絶対にさせない見過ごさない校内体制を構築し、生徒や保護者に安心・安全な学校生活を保障する。	B	[成果]SNSルールを徹底し、セーフティ教室を実施して、モラルとマナーの向上を図った。 [課題]いじめの継続した研修を実施し、教員の意識格差の解消。	不適切な指導や対応の理解を深め今後も、継続した研修を実施し、「見極めて育成する指導」を全教職員体制で体罰根絶に取り組んでいく。
特別活動 部活動	1	部活動を奨励し、第1学年において全員が部活動に所属し、積極的に活動する指導体制を構築する。	B	[成果]第1学年全員加入は推奨、部活動加入率は、学校全体で89.3%に上昇している。 [課題]部活動ガイドラインの理解遵守。保護者への周知理解と事故防止対策指導は課題がある。	各部活動の特性により、活動する機会をより多く提供できるような環境を整え、積極的に効率的な活動を目指していく。日常の学習と学校行事と部活動にメリハリをつけさせる。部活動ガイドライン周知徹底
	2	学校行事や委員会活動を充実させ、社会性や帰属意識の育成を図るとともに学校内外に貢献する姿勢を醸成する。	B	[成果]生徒主体による実行委員形式の学校行事や生徒会・委員会活動が積極的に活動している。 [課題]行事の意義と本質が課題である。	・生徒主体の活動機会を増やすとともに、学校外での活動に積極的に参加させ、社会性を育成する。 ・文化行事形態の検討
防災教育 安全教育	1	災害から自らの命を守るために必要な「自助」の能力を身に付けさせ、地域で助け合うなど「共助」の精神を育成する。	A	[成果]避難所設置運営訓練として避難所運営ゲームによるシミュレーション訓練となった。防災教育研究指定校の取り組みにより危機管理の充実。 [課題]地域住民と連携した防災訓練の充実を図る。	・関係機関や地域連携を強化し、「自助」「共助」の意識の醸成を図り、実践的な訓練を定着させる ・防災訓練のより実践的な取り組み
	2	学校安全計画年間指導計画に基づき、登下校時の交通安全と災害等に対応した安全指導を推進する。	B	[成果]生活指導部を中心として、指導が行われ、大きな事故は発生していない。自転車交通安全教室実施による意識啓発 [課題]登下校時の事故、特に自転車通学者事故対策。ヘルメット着用義務	次年度以降も登下校時の安全指導の充実を図っていく。特に、自転車ヘルメット着用校則化による指導。 ・自転車安全教室アプリの導入 ・SNS安全教育、薬物乱用教室
体力向上 健康増進	1	体育授業、部活動、学校行事等あらゆる機会を捉えて、体力及び運動能力の向上を全校で取り組む。	B	[成果]オンラインを活用したからだづくり運動及び持久走に取り組んだ。 [課題]改築改修工事に伴う施設使用制限。運動部活動、行事の場の確保。授業部活動の事故防止	改築改修工事に伴う使用施設制限下で、運動できる機会をより多く提供できるように環境を整え、体力向上と事故防止の取り組み徹底。
	2	東京都体力テストの結果を踏まえ、普段運動をする習慣のない生徒に、効率的に運動量を確保する取組みを推進する。	C	[成果]実運動の絶対量の不足。オンライン技術と組織的な活用の向上。 [課題]学校全体として行事等を通じて、体力向上を図る。	体力テストの実施による体力向上の意義を理解させ、取組みの充実を図り、東京都体力テストの平均値を上回る種目を増やす。
	3	生活習慣病に対する知識や対処を学び、がん教育を推進する。感染症防止対策を徹底し、健康な生活を維持する。	B	[成果]3学年にがん教育の意思を講師として招聘し、生活習慣病について理解を深めた。また女性のからだとLGBTQについても産婦人科医講師による講義を実施した。 [課題]女性の体とLGBTについての理解を推進する。	・各教育活動全般において、健康管理や性的マイノリティへの理解を推進する取り組みを実施する。

募集広報	1	ホームページの学校紹介分野を充実させる。学校から地域・保護者等への最新の情報発信に努める。	B	[成果] 更新回数148回 [課題] タイムリーな更新とホームページレイアウトの改善。	次年度もタイムリーな更新を行い、きめ細かな情報発信に努めるとともに、HP運営の組織化を図り、内容を充実させる。
	2	本校を第一志望校として目指してもらえよう、部活動等の広報や、中学校との連携事業を推進する。	A	[成果] 最終応募倍率男女1.98倍の高倍率 学習塾等説明会実施 [課題] 中学校及び塾等との情報共有による連携をさらに深める。	・スクールミッションとポリシーの更なる周知 ・新校舎改築工事に向けて、多摩地区中堅進学校へ特色化推進による外部への情報発信を一層強化する。
学校経営 組織体制	1	教科主任会を定例化し、教科会における学習指導を組織的、効率的に実施する。	B	[成果] 教科主任会と教科会をリンクした月例実施により、適切な教育課程の進行管理及び進路指導の連携した組織体制(立志塾等)が充実した。 [課題] 学力到達度の共有と模試分析を活用した教科指導力向上。	模試分析会の教科内フィードバックと活用、GTEC結果分析による活用、国公立大学難関私立大学希望者の学力向上策「立志塾」年間講習計画の作成。
	2	各種会議や委員会を定期的に開催し、課題解決を図る。	B	[成果] オンライン会議のスカイプによる活用。テレワークの推奨と効率化及び紙資料の節約。 [課題] 打合せや諸会議のオンライン化による有効活用。水曜日以外に会議研修等の設定	・改築工事に伴う施設制限を契機に、オンライン会議の常時開催 ・デジタル化の推進による情報の流通促進と共有化の向上 ・学年会議の定例開催の確保及び各部との連携参加
	3	教師、生徒における暴力行為や暴言、すべての体罰の根絶を図る。	B	[成果] 学校としての最重要課題として、研修と指導を通じて全教職員で取り組むことができた。 [課題] 教師同士が防止する職場風土づくり	・アンガーマネジメントや生徒理解を進める研修会 ・サービス事故実践事例による態様の把握による防止意識向上
	4	教育相談委員会を設置して、スクールカウンセラーとの連携を密に行い、問題の共有化による組織的な課題解決を図る	B	[成果] 教育相談委員会の定例化によるSC、養護教諭、当該学年との連携向上。生徒ケース会議による組織的な対応 [課題] 教育相談および特別支援教育の理解推進と本校の現状把握。	・コーディネーターの位置づけと役割の明確化。 ・特別支援学校のセンター的機能を充実させたネットワークづくり ・SCによる特別支援教育校内研修会
	5	IT推進チームを核にデジタル化を推進し、統合型学習支援システムを活用する。「生徒一人一台情報端末機器」の組織的な有効活用	A	[成果] 全教室でオンライン学習を実施可能な環境整備。 [課題] 生徒一人一台情報端末の活用	・不登校生徒等に対応する授業行事等のオンライン配信等組織的なデジタル化の推進
	6	経営企画室の業務進行管理を機能的に行い、都民の信頼に応える。	B	[成果] 情報管理の改善徹底。 [課題] 改築や校舎移転、予算執行等、より一層の連携充実を図る。	業務の進捗管理、連絡及びチェック体制の強化を図るとともに、教育職と行政職の一体感をより高め、経営参画を強化する。